

こおろぎ

発行日 2003年2月1日 No.119
発行元 株式会社
オリジン・コーポレーション
代表取締役：杉井保之
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187
E-mail origin@ck.tnc.ne.jp

貯金と歯医者

元気よく2003年を走り出したのもつかの間、年末からの大学の試験で久しぶりに頭を使ったせいか、数年ぶりにダウンしてしまいました。最初は「知恵熱」だと思っていたのですが、今年流行のインフルエンザだったようです。

気合を入れて走り出した新年早々のエンストに、つくづく人生というもの思い通りにならないものだと思いますが、私を中心に地球が回っている訳ではないので仕方のないことです。誰も皆、そうした中で自分の人生を作っているのです。

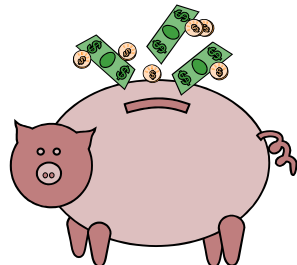
その間にお葉書を下された方には、お返事も書かず本当に申し訳なく思っています。しかし、こうしてしばらく葉書を書かない日々が続くと、自分が自己中心的になっていくのがよくわかります。

私は試験や仕事が詰まってくると、それだけで頭が一杯になりがちですが、葉書を書く5分や10分の時間が決してないわけではないのです。結局、一日のすべてを自分の為に使うようになるのですから自己中心になっていくのもうなずける話です。

ですから、人の幸せを祈って葉書を書くことは、私が自己中心的にならないための「制御棒」の役割をしていて、これをやめたら一層自己中心的な人間になり、きっと不幸になると思うのです。

私は以前、良い新入社員の見分け方として、「積み立て貯金」と「歯の治療」を挙げたことがあります。

私が葉書を書くのと同じことですが、「積立貯金」を続ける人は、自分の人生を大切にしようと思っている人でしょうし、ある程度、自分を自制出来る人だと思います。私は「行動が人を作る」と考えていて、こうした自分の人生を大切にすることをすればするほど、自分の人生が大切になっていくと思っています。



また、「歯の治療」もその人の生き方をよく表している気がします。私はこれまで歯が痛くなったことはありませんが、それは歯が痛くなるのが嫌で定期的に歯医者さんに行っているからです。そこで、もし虫歯が見つかったら完全に治療が済むまで必ず通い続けます。

痛くなるまで病院に行かない人や、痛みが治まると行かなくなる人は、その場しのぎの生き方をしているような気がします。

渡辺二郎さんの「人生の哲学」という本の中に、「生きがいこそが、人生の生を支える根源であり、それに基づく忍耐強い努力と精進のみが人生の有意義な形成を可能ならしめる。その人間的努力のほかに、どこにも人生というもの存在しない」という一文がありましたが、まったく私も同感です。

元々「やさしい人」がやさしい行動をするのではなく、やさしい行動を積み上げている人が「やさしい人」になっていくし、多少の向き不向きはあるにしろ、一生懸命その仕事に打ち込んだ人が天職を得ると思うのです。

人生には思い通りにならないことも色々ありますが、誰にも有意義な人生は手に入れられると思います。皆さんも、是非、有意義な人生を手に入れていって下さい。

私は人の幸せを祈って葉書を書くことをお勧めします。



右上のハガキ一つにも、最近の風潮が現れていますが、そうした人やその場しのぎの人が増えれば国や保険制度が行き詰まるのも当然のことでしょう。

しかし、こうした他の人の矛盾には気がつくのに、意外と私達も同じようなことをしているのかもしれない。

まず私達の人生を良いものにしていきましょう。

お便りコーナー

県の教育研修会へPTAの代表として参加してきました。仕事を休んで参加するのだから何かをつかんで帰ろうと意気込んで参加したのですが、参加者のほとんどが先生で、しかも多くの方が入り口の周りにタバコをポイポイ捨てているのを見て何となく嫌な予感がしていました。講演のテーマは、「道徳」でしたが、講演中も居眠りをしている先生方が多く、「道徳を学ばなければいけないのは、先生の方だなあ」と思いついて帰ってきました。タバコの吸殻は拾っておきましたが、真面目にやっている先生がいるだけに、とても残念な気持ちになった一日でした。

先日、万引きをした中学生が警察官から逃げようとして、踏み切りで電車に跳ねられるといういたましい事故があったそうです。「両親のショックは大変なものだと思いますが、「両親でもない人がテレビのインタビューに答えて、「万引きくらい子どもだったら皆やっていることなのに、将来のある子どもを警察に引き渡した書店が悪いと私も文句を言って来たんです。」と話していました。こんなことを堂々という人がいるのかと本当にびっくりしましたが、そうした嫌がらせが他にも多数あって、そのお店はとうとう閉店することになったそうです。これからはうかうかが商売などできませんね。本当に恐ろしい国になったと思います。

先日、幼稚園でこんなことがありました。A君が担任のところに、「B君がボクの耳に紙くずを入れた」と言って来たのですが、B君は「やっていない・・・。」と言い、担任も見えていなかったものでどっちが本当かわからなくて困ってしまつたことでした。耳に入った紙くずはすぐ取れたので良かったのですが、このままクラスに戻すべきか、ちょっと迷いましたが、幼稚園の裏山にある神社の神様の話をしたり、ウソをつくど地獄で舌を抜かれるといった話をしたところ、A君が急に泣き出しました。A君の「舌を抜かれたくない」という言葉で、ウソをついたのはA君だとわかりましたが、泣いているA君を見てB君の目は、怒っている目ではなく、ちょっと心配そうなやさしい目でした。「ごめんね」と謝るA君に、「いいよ」の一言で二人は一緒にクラスに戻っていききました。今回は神様ではなく、閻魔様の力で本当のことがわかりましたが、日頃、A君は気が弱く、B君は少しお調子者で、普段の生活から私はB君を少し疑っていたので、教師として、人間として世の中や人の姿の一面しか見れていないことに気がつき、もっと丁寧にと人と接していく必要性があることを閻魔様に教えてもらった気がしました。その日の午後、ちょうどB君と二人になれたので、「さっきはごめんね。先生、見ていないからどっちが本当かわからなかった」と謝ることができました。その時、B君が「うん」とうなずいてくれて、少し心の痛みがとれました。六歳児ですが、大人に見えました。私が今回こんな反省したり、考えさせられるのはB君の態度なのです。余計なことを一言も言わないのです。